6. 福岡市内における河川を中心とした水質事故および苦情について

環境科学課　清水　徹也・大平　良一・藤代　敏行

平成 25 年度日本水環境学会年会併設研究集会

福岡市保健環境研究所では,現在年間 10 件程度の河川等公共用水域を中心とした水質に関する相談ならびに苦情が持ち込まれている.

今回 H22 年度～H24 年度の水質相談・苦情の内容を調査するとともに H12～H20 年度にかけて調査した水質相談・苦情と比較検討を行い内容の変化を比較検討した.その結果, H12～H20 年度と比べ魚の浮遊死（斃死）と油浮遊の苦情相談件数が減少し,苦情・相談全体の依頼件数は約半数になったことが確認された.

魚浮遊死（斃死）が減少した理由は,従前より苦情の原因の判明率が低く,苦情を持ち込む側および分析側の双方が検体の受け入れにあまり積極的ではなかった事が理由として考えられる.

一方油浮遊事故に関しては,上流への遡り調査等により原因施設ならびに原因物質が判明するケースが多く,研究所への相談件数が減少したものと推察された.